

第2章 古代がよみがえる

—古代のはにわと現代技術—

殿塚・姫塚古墳の発掘から今年で60年。これを記念し、両古墳を発掘した早稲田大学で企画展「甦る九十九里の埴輪群像」が開催中です。この展示では、芝山町など九十九里地域で発掘されたはにわとともに、はにわの3D画像を公開しています。展示で中心的役割を果たした早稲田大学會津八一記念博物館の平原信崇さんへ今回の展示に懸ける思いを聞きました。



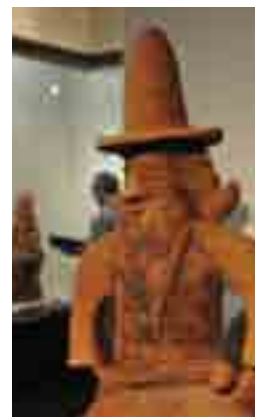
早稲田大学
會津八一記念博物館
平原 信崇さん

左：企画展示室の様子。3D画像とはにわが印象的に展示されている

今回は殿塚・姫塚古墳の発掘60周年を記念し、芝山はにわ博物館（芝山仁王尊）から4点、芝山町立芝山古墳・はにわ博物館から3点、千葉県教育委員会から2点、横芝光町教育委員会と山武市教育委員会、日本大学文理学部からそれぞれ1点をお借りして、合計12点の九十九里地域のはにわを一堂に集めた企画展となりました。発掘から60年をへて芝山町、芝山仁王尊、そして早稲田大学が協力して本展を開催できたことを、非常に意義深く感じています。

また、古墳時代の工人が手作業で作ったはにわは、たとえ同じ工人が作ったものでも、よく見ると一つ一つ微妙に表情が違ってきます。その匠の業をじっくり観察しながら、12体の個性あふれるはにわの魅力を感じてもらえたらうれしいです。この機会に、ぜひ会場でお気に入りのはにわを探してみてください。

今回の展示の目玉の一つは、株式会社ラングの協力のもと、三次元計測したはにわの3D画像を、来館者が自由に動かせるようにしたこと。タブレット型端末上で3D画像のはにわを指で動かすと、スクリーンに投影しているはにわも同じように動きます。しかも縦と横に360度動かせるので、普段は見られないはにわの姿を見ることが出来ます。



この3D画像は、はにわの表面の小さい凹凸までくつきり表現できるため、研究の基礎資料として有効に利用することが出来ます。また一般の方々には、直接触れられないはにわに少しでも興味を抱くきっかけになればと思っています。

今回の企画展は、大学の研究成果を学内だけでなく、一般の方々にも広く知ってもらおう良い機会だと考えています。特に学生には、展示を通してはにわや考古学に興味を持ってもらえたいですね。

はにわ、東京へ行く



初！東京

殿塚・姫塚古墳のはにわが町外へ持ち出されるのは今回が史上2回目。ヤマトロジスティクス(株)東京美術支店にご協力いただき、こん包の様子を取材しました。



来館者にインタビュー

早稲田大学大学院の学生



東京ではにわを見られる機会
はあまりないので、良い勉強に
なりました。3D画像を自分で
操作できるというのは、とても
良い展示だと思います。展示物
同士の間隔はゆったりとスペー
スがとってあり、とても見やす
かったです。

栃木県から来た男性

千葉県のはにわは普段見る機
会がないので、来館しました。
はにわの分類が分かりやすかつ
たですね。3D画像の展示は、
一般の人にも説得力があるもの
でした。

早稲田大学非常勤講師の女性

3D画像は自分の仕事と関わ
りがあるため、興味深く拝見し
ました。本物のはにわって、素
朴な感じがかわいいですね。



① 始めに、はにわを展示ケー
スから運び出します。こん
包を行うのは美術品専門の
チームで、宅配便を運ぶこ
とはないそう。



② あらかじめはにわの大きさ
に合わせて用意しておいた
木枠に、はにわを入れます。
微調整は現場で行います。



③ 美術品専用のトラックに載
せて運びます。

